

尿路上皮癌におけるNectin-4の発現と予後に関する臨床病理学的研究

1. 研究の対象

2005年4月～2019年12月に当院で尿路上皮がんと診断され、治療を受けられた方

2. 研究目的・方法

尿路上皮癌は日本では2015年の罹患者数は約2万人、死亡者数は約8千人であり、5年生存率は限局期では約90%程度ですが、進行期では約5%程度と長期生存率の低い疾患の一つです。

近年、標準治療で用いる抗がん剤と抗PD-L1による免疫療法での治療が終了した局所進行または転移再発尿路上皮癌に対してEnfortumab vedotin(ASG-22ME)と呼ばれる抗体薬物複合体が臨床的に有効と示され、2019年12月に米国にて迅速承認されました。Enfortumab vedotin(ASG-22ME)は微小管を阻害するmonomethyl auristatin E(MMAE)に結合した完全ヒト化モノクローナル抗体で構成されており、免疫グロブリン様細胞接着分子のNectin-4を標的としています。Nectin-4は腫瘍の形成に関連しており、尿路上皮癌・胃癌・乳癌・肺癌などの癌腫で過剰発現を示すことが知られています。既に胃癌・乳癌・食道癌・膵癌においてその発現の有無および発現程度と予後との関連が検証されています。

この研究は、尿路上皮癌におけるNectin-4発現頻度と予後に関する関連性を調査する事を目的としております。尿路上皮癌の患者さんの、病理背景およびその治療成績を収集し解析する形式で、臨床応用可能な予後予測マーカーを探索します。

研究実施期間:研究許可日～2023年12月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料:既存の病理凍結組織および病理ブロック

情報:年齢、病歴、治療歴等の発生状況、病情報、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない
範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さ
い。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さん
の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連
絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先:

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉6-5-1

TEL:04-7133-1111

国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科 楠原正太

研究責任者:国立がん研究センター東病院 乳腺・腫瘍内科 松原 伸晃